

佳生流華道

テキスト
総括編





こ と ば

日本いけばな芸術協会常任理事 (昭和41年～)
兵庫県いけばな協会会長 (昭和54年～)
兵庫県文化賞受賞 (昭和54年)
神戸市文化賞受賞 (昭和55年)
近畿華道協会連絡協議会会長 (昭和57年)

佳生流のいけばなは、流に定められた花型を着実に修得するとともに流派を超越して、正しくいけばなを理解し、真技を身につけ、花の道を通じて人間の道を悟り、うるわしき人格を培うこと、これが佳生流の主目的であることを先ず第一に申し上げておきます。

田舎で育った私のいけばなは、自然美以外にないものと思っていました。だんだんやっっている内に、昔のお生花が自然美そのままの姿でなく、素晴らしい造形美的内容をもったものであることに気がつきました。自然の草木花卉の類を用いるいけばなですから自然美を大切に觀賞するのが当然だと考えたのですが、それは極めて浅い考え方でした。魚

だって野菜だってそのままでは美味しく頂けません。科学の進歩した今日、想像もつかないようなものが日常生活に役立っていますように、お料理の仕方によって一層美味しく頂けますし、科学の力によって素晴らしい衣類や日用品が出来ていきます。いけばなも古い因習や自然調のみとわられないで研究を重ねますと、実に素晴らしい美が生れ、楽しさが湧き出るものです。こうした体験が佳生流華道の新潮花(昭和二十四年に基本花型制定)や新生花(昭和五十年～、雅風花(昭和五十五年)を生んだ起因となったのです。

しかし佳生流では古くからの古典的ないけばなも自然調のいけばなも、研究と指導を怠ってはいけません。完成されたこれ等のいけばなを体得し、更に進んで新しい時代の新しい様式の生活に相応しいいけばなを修得して頂かねばならない時代であることは申すまでもありません。これが現代華道の精神であり、佳生流会員皆様方の精神であってほしいのです。佳生流華道訓の意義もここにあり、徒らに奇異を好み邪道におちいることなく、高い美的教養を積んで頂くことを切望いたします。

この手帖には古典花、自由花、新潮花、新生花、雅風花の五種に分類して、その基本となる解説のあらましを記しております。十分ではありませんが、広く理解して頂けますよう申し添えておきます。

佳生流華道訓

真を求め善をもち美を創る心とし

宗祖の志と継いで人倫の精華と成るべし

宗書 為國度之華